

平成30年度 公益財団法人大分県体育協会第2回理事会

日時：平成30年8月31日（金）13時30分～

会場：大分県庁本館2階「正庁ホール」

理事

出席者 工藤 利明 麻生 益直 井上 倫明 安部 省祐 安部 亮
(25名) 大場 俊二 工藤 啓記 詫摩 英明 土谷 忠昭 牧 和志
松本 悠輝 蓑田 智通 三好 正昭 穴井 俊一 阿部 昭一
今富 寛二 衛藤 賢 榎 英樹 桑野桂一郎 佐藤 彰倫
白水 厚二 花木 敏寿 樋口 紅史 山崎 隆典 渡邊 美穂

欠席者 広瀬 勝貞 上野 浩光 相馬 尊重 小幡 龍也 廣瀬 宏一
(5名)

監事

出席者 鍵矢 栄典 工藤 哲郎 矢部 正秋
(3名)

参与

欠席者 津田 元英

資格確認 伊藤総務部長が出席者理事25名で、定数の過半数であることから、本会定款第36条により、本会が成立することを報告した。

1 開会のことば

伊藤総務部長が開会のことばを述べた。

2 挨拶

公益財団法人大分県体育協会副会長 工藤 利明大分県教育長があいさつを行った。

皆さんこんにちは。連日大変暑い中ご出席賜りましてありがとうございます。早速ですが、この8月ブロック大会が鹿児島で行われました。理事の方には、長時間かけて駆けつけていただき、誠にありがとうございます。また、県内に留まって、色んな形でサポートしていただきました理事の方々にもお礼を申し上げます。大変暑いところで、しかも大変熱い試合が繰り広げられました。結果はまた後でご報告いたしますが、まずまずの成果になったのではないかと考えております。ただ、あの場で結団をして私のほうから激励をした時に、たまたま甲子園の真最中でありました。大分県代表は藤蔭高校と伺っていますが、相手は強豪とうたわれた打撃チームの星稜高校でありました。見事に点数を沢山取ったけれども、結果的には負けてしまった。ところが次の試合では済美高校が延長13回に大逆転をしました。一人の投手であるそこまでいったということで、要は気力との勝負だと思います。九州大会それぞれのチーム状況はわかっているけれども勝敗というのは気力の差がでてくるということで、勝った兜を締めて戦って欲しいと申し上げました。ずいぶん良い結果を出してくれましたが、まさにこれか

らが本国体福井での決戦になるということでもあります。何としてでも、勝たなければいけない。そして、2年越しの悲願でもあります10位台奪還を成し遂げなくてはならない。これからの1ヶ月でできるだけ準備をして、万全の体制で戦いに臨みたいと思っております。今日はそういったことで、いろんな状況報告と併せまして、法人の名称、部活動の在り方等についてもご報告差し上げたいと思っております。限られた時間ではありますがぜひご議論いただきたいと思っておりますのでどうぞよろしくお願いいたします。

議長選出

理事会規定第6条では、「理事会の議長は会長がこれにあたる」となっていますが、会長は他の公務と重なり出席ができませんので、定款35条により工藤副会長に議長をお願いします。

また、議事録署名につきましては、定款第37条に出席した会長・副会長及び監事は議事録に記名押印するとなっておりますので、その旨よろしくお願いいたします。

以降は議長による進行。

3 報告事項

- (1) 平成30年度事業報告
- (2) 平成30年度第38回九州ブロック大会成績について
- (3) 第73回国民体育大会に向けた競技力向上対策について
- (4) 各種大会成績について

以下、佐保事務局長の説明

それでは御説明いたします。レジュメの2ページをお開きください。報告事項(1)の平成30年度事業報告についてですが、5月14日に開催いたしました第1回理事会以降の主な事業につきまして、報告させていただきます。

No.1、5月14日に、大分県スポーツ少年団外傷・障害防止担当者養成講習会の本年度第1回目を開催いたしました。この講習会は、平成18年度からスポーツ少年団が実施している事業で、スポーツ医科学委員会研修部会と連携して開催している講習会でございます。2回目は3ページNo.14の6月11日、3回目はNo.23の7月9日に開催いたしました。本年度は10月以降にあと3回開催する予定としております。

2ページにもどりましてNo.7、5月29日に定時評議員会を開催しまして、平成29年度事業報告、決算報告を御審議いただき、承認していただきました。

3ページをお開きください。No.15、6月14日に第1回スポーツ医科学委員会を開催し、平成29年度事業報告、平成30年度事業計画を報告するとともに、国民体育大会大分県代表選手問診票、スポーツトレーナー等に関する臨時専門部会について審議いたしました。

No.21、7月6日に九州ブロック大会・国民体育大会帯同トレーナー研修会を開催いたしました。この研修会は3年前から始めた取り組みで、帯同トレーナーの資質の向上と、「チーム大分」の一員としての自覚の養成に向けて開催するものでございます。

4ページをご覧ください。No.27、7月26日から31日にかけて、第45回日独スポーツ少年団同時交流の受け入れ事業を実施しました。今回はドイツスポーツユースの団員8名を日出町に迎え、有意義な交流会が開催されました。なぎなたや空手道等のスポーツ交流が実施され、本会の渡邊理事にはなぎなたの指導をしていただきました。ありがとうございました。

No.29、8月2日から5日にかけて、大分市において、第50回九州ブロックスポーツ少年大会を九州各県から182名参加のもと開催し、九州各県の少年団員が交流を深めました。

事業報告については以上です。

《質疑応答なし》

それでは、報告事項（2）平成30年度第38回九州ブロック大会成績について報告いたします。「第38回九州ブロック大会成績一覧」とある別冊資料の1ページをお開きください。

この表は、第38回九州ブロック大会の夏季・秋季大会をあわせました九州各県の代表権獲得数と順位の一覧表でございます。太線で囲んでおります大分県を御覧ください。夏季大会は20、秋季大会は33の代表権を獲得し、夏季、秋季を合わせた総合では、昨年を2つ上回る53の代表権を獲得、順位は九州第3位でございます。2ページから4ページにかけては、夏季、秋季それぞれの競技種別ごとの代表権獲得一覧表でございます。4ページ下の太字で夏季・秋季合計とあるところを御覧ください。代表権獲得状況ですが、上位通過の代表権獲得数の前年度との比較では、3位通過は1つ下回ったものの、1位通過、2位通過は昨年を上回り、合わせますと昨年を5つ上回っている状況です。代表権を獲得した競技数については昨年と同数でございました。また、表には掲載していませんが、分類別では、1倍競技が5つ減ったものの、団体の3倍競技が3つ、5倍競技が3つ、8倍競技が1つ代表権を増やしている状況です。5ページ以降は各競技ごとの試合結果でございます。それぞれの説明は省略させていただきますので、後刻御確認いただきたいと思います。

本年度のブロック大会は、2年後に国体を控えた鹿児島県が自県でのブロック大会開催を勢いにし、代表件数を大きく伸ばす中、熾烈な戦いとなりました。代表権の獲得が期待されたボート成年男子、ホッケー少年男子、ボクシング、剣道少年男子が代表権を獲得できなかった反面、昨年代表権が獲得できませんでしたが今年の国体での活躍が期待されるボート成年女子、ボウリング少年男子、サッカー成年男子、ハンドボール少年女子、柔道成年男子については、代表権が獲得できました。また、先ほど申しましたとおり、団体種目の代表権獲得競技数が昨年度を7つ上回ったことは、これまで団体競技の強化を進めてきた成果ととらえています。この九州ブロック大会の結果だけで、福井国体での天皇杯順位10位台の達成が楽観視できる状況では決してございませんが、団体競技をはじめ、活躍が期待される競技は概ね上位で代表権を獲得していることなどから、福井国体での10位台への挑戦権はあると考えています。福井国体開催まで残り僅かな日数ですが、これからの強化が非常に重要と考えております。

以上が、第38回九州ブロック大会成績についての報告でございます。

続きまして、報告事項（3）第73回国民体育大会に向けた競技力向上対策について報告いたします。

レジュメの5ページをお開き下さい。こちらは福井国体に向けた強化のイメージ図であります。一昨年の岩手国体以降、2年越しで強化を図ってまいりましたが、その間、ヒアリングや各指標大会ごとに検証と見直しを行い、必要な強化対策を実施してまいりました。特に少年種別につきましては、インターハイ後の速やかな選抜強化への移行を積極的に進めてきたところであり、これについては、蓑田高体連会長をはじめ役員の皆様方に、様々な場面でインターハイ後の選抜強化の重要性について触れていただくなど、強い後押しをいただいたところです。図で見ますと、現在は九州ブロック大会が終了し、福井国体まで会期前は10日ほど、本大会は1ヶ月前の時期となっております。ブロック大会で代表権を獲得した競技は、あくまで、福井で戦うテーブルに乗ったというだけですので、ここからのもうひと頑張りが必要であり、危機感を持って悔いの残らないよう最終調整を行う必要があります。

6ページをご覧ください。こちらはこれから福井国体開催までの期間に実施する競技力向上対策であります。これまで重点的に取り組んでまいりました団体競技の強化については、県外遠征や優秀チームを招聘するなど、インターハイや九州ブロック大会で出たチーム戦術の修正を主な観点として強化を図ります。また、特に環境に勝敗が左右される競技については、これまでも実施はしていますが、再度福井国体の会場や同じ環境にあるとこ

ろで練習を行うなど、メンタル面の強化も含め細心の注意を払って準備を整えます。また、いくつかの競技においては、インターハイ、九州ブロック大会の反省を基に、本番までの約1ヶ月間における解決すべき選手個々の課題の発見を主な観点として、日本代表コーチを経験した優秀な指導者等を招聘いたします。なお、こちらに記載していない競技につきましても、県外遠征やふるさと選手を招聘しての県内合宿、試合経験を積むための大会参加、現地での直前合宿など、各競技・種別毎の課題に応じた効果的な強化策を計画しております。

福井国体開催まで残り僅かな日数ですが、大分県競技力向上対策本部と連携を図りながら、最後まで気を緩めることなく強化や調整を行い、「チーム大分」の目標を達成したいと考えております。

以上が第73回国民体育大会に向けた競技力向上対策についての報告でございます。

《質疑応答なし》

それでは、報告事項(4)の「各種大会成績」について報告いたします。

レジュメの7ページをお開きください。5月9日以降の成績をまとめたものでございますが、※印で記載のように、中学生は「全国大会ベスト8以上」、社会人・高校生は「九州大会ベスト4以上・全国大会ベスト8以上」、国際大会はすべての成績を掲載しています。本日は全国大会の優勝及び国際大会の入賞を報告させていただきます。

8ページ、陸上競技、秩父宮賜杯(ちちぶのみやしはい)第71回全国高等学校陸上競技対抗選手権大会において、大分東明高校のベヌエル・モゲニ選手が男子1500mと5000mで2冠を達成、同じく大分東明高校のマータ・モカヤ選手が女子3000mで優勝いたしました。大分東明高校は男子学校対抗でも優勝しております。

11ページ、水泳競技、とびうお杯第33回全国少年少女水泳競技大会において、大分ダイビングクラブが男子飛び込みチーム別で優勝いたしました。第13回パンパシフィック選手権大会において、早稲田大学の渡辺一平(わたなべ いっぺい)選手が男子200m平泳ぎにおいて大会新記録で優勝いたしました。また、渡辺選手は、第18回アジア競技大会において、男子200m平泳ぎで2位に入賞しております。

13ページ、ボート競技、2018ジャパンカップ国際レガッタにおいて、立命館大学の高野晃帆(たかの あきほ)選手が女子舵手(かじ)なしペアで優勝いたしました。

17ページ、フェンシング競技、第64回全国高等学校フェンシング選手権大会において、大分豊府高校の中村太郎(なかむら たろう)選手が男子フルーレ個人で優勝いたしました。

19ページ、第18回アジア競技大会において、山九株式会社の大石葉奈(おおいし かな)選手が女子エペ団体で3位に入賞しております。柔道競技、第49回全国中学校柔道大会において、宇佐市立長洲中学校の原田瑞希(はらだ みずき)選手が女子40kg級で優勝いたしました。19ページ、ライフル射撃競技、第44回全日本ライフル射撃選手権大会において、由布高校の中村実佑(なかむら みゆ)選手が、女子ビームライフル立射60発で優勝いたしました。

20ページ、カヌー競技、第34回全国高等学校カヌー選手権大会において、高田高校の米光陸(よねみつ りく)選手が男子カナディアンシングル500mで、同じく高田高校の田中(たなか)、岩永(いわなが)ペアが男子カナディアンペア500mで、同じく高田高校の田中(たなか)、岩永(いわなが)、熊井(くまい)、米光(よねみつ)チームが男子カナディアンフォア500mで優勝し、同一校による3種目制覇の快挙を成し遂げました。また、文部科学大臣杯平成30年度日本カヌースプリントジュニア選手権大会において、高田高校の米光陸(よねみつ りく)選手が男子カナディアンシングル500mで、同じく高田高校の田中(たなか)、岩永(いわなが)、米光(よねみつ)、熊井(くまい)チームが男子カナディアンフォア500mで優勝いたしました。

21ページ、アーチェリー競技、第18回アジア競技大会において、株式会社ミキハウスの加藤綾乃(かとう あやの)選手が女子リカーブ団体で3位に入賞いたしました。

以上で各種大会の成績の報告を終わらせていただきます。

失礼いたしました。14ページをお開きください。1つ漏れがございました。ボート競技、第18回アジア競技大会において、女子舵なしペアで立命館大学の高野晃帆（たかの あきほ）選手が4位に入賞しております。大変失礼しました。以上で終わります。

《質疑応答なし》

4 議事

以下の議事について、佐保事務局長より説明された。

議案1 会長専決事項について

- (1) 第38回九州ブロック大会夏季大会大分県代表団について
- (2) 第38回九州ブロック大会秋季大会大分県代表団について

議案2 第73回国民体育大会大分県代表団について

【議案1 会長専決事項について】

- (1) 第38回九州ブロック大会夏季大会大分県代表団について
- (2) 第38回九州ブロック大会秋季大会大分県代表団について

それでは、議案1の会長専決事項につきまして、説明させていただきます。レジュメ22ページをお開きください。

まず、(1)の第38回九州ブロック大会夏季大会大分県代表団についてですが、役員として、団長、工藤利明 副会長、副団長、蓑田智通 常務理事、総監督、井上倫明 専務理事、ほか総務2名の計5名、旗手は、ボート競技少年男子の二串綾修（にくし りょうすけ）選手、選手数は、11競技28種別に監督・選手124名、本部役員を合わせた総計129名の編成で大分県代表団を会長専決により、鹿児島県を中心に開催されました第38回ブロック大会夏季大会に派遣いたしました。23ページから24ページに監督・選手の名簿を掲載してございます。

次に25ページをお開きください。(2)の第38回九州ブロック大会秋季大会大分県代表団についてですが、役員として、団長、工藤利明 副会長、副団長、蓑田智通 常務理事、総監督、井上倫明 専務理事、ほか総務17名の計20名、旗手は、アーチェリー射撃競技成年女子の佐藤真奈美（さとうまなみ）選手、選手数は26ページにございますとおり、22競技63種別、監督・選手557名、本部役員を合わせた総計577名の編成で大分県代表団を会長専決により、第38回ブロック大会秋季大会に派遣いたしました。28ページから32ページに監督・選手の名簿を掲載してございます。

九州ブロック大会の大分県代表団の決定につきましては、県内予選後、参加申込みまでの期間が短く、理事会を開催するいとまがないことから、会長専決により選手団を決定し、派遣した次第でございます。以上で会長専決事項に係る説明を終わります。

《質疑応答なし。全会一致で承認された》

【議案2 第73回国民体育大会大分県代表団について】

それでは、第73回国民体育大会大分県代表団につきまして説明させていただきます。レジュメの33ページをお開きください。

開催期日は、主日程が9月29日（土）から10月9日（火）の11日間となっております。また、会期前実施競技として水泳競技、ハンドボール競技、クレー射撃競技が9月9日（日）から17日（月）まで開催されることとなっております。開催地は、福井県内の9市8町、石川県内の1市、静岡県内の1市となっております。

本部役員といたしまして、団長に 広瀬勝貞（ひろせ かつさだ）本会会長、副団長に 工藤利明（くどう としあき）副会長、総監督に 井上倫明（いのうえ みちあき）専務理事、ほか総務17名でございます。旗手は、フェンシング競技少年男子の中村太郎（なかむら たろう）選手でございます。

34ページをお開きください。参加人数一覧表でございます。本県代表団は、34競技86種別に出場し、監督55名、選手378名、合計433名に、本部役員20名を合わせた総計453名の編成でございます。

各競技の監督・選手ですが、34ページ右側から選手名簿を掲載してございます。順に説明いたしますので名簿を見ながらお聞き下さい。

まず、陸上競技ですが、全種別の出場で監督2名、選手29名、計31名の選手編成です。インターハイで優勝した少年男子A5000mのモゲニ選手や少年女子A3000mのモカヤ選手をはじめとする少年勢の活躍が期待されます。

次に、水泳競技です。競泳、飛込、アーティスティックスイミング、オープンウォータの出場で、監督5名、選手19名、計24名の選手編成です。競泳では、平泳ぎの渡辺選手、少年男子Bの田中選手、飛込では、出場する3選手揃っての活躍が期待されます。

次に、サッカー競技です。成年男子・女子の2種別の出場で、監督1名、監督兼選手1名、選手30名の計32名の選手編成です。成年男子は、JFLに所属するヴェルスパ大分が主体です。活躍を期待したいと思います。

次に、テニス競技です。成年男子、少年男子、少年女子の3種別に、監督2名、選手6名の計8名の選手編成です。力のある成年男子、少年男子の活躍を期待したいと思います。

次に、ボート競技です。成年男子、成年女子、少年男子の3種別に、監督2名、選手11名、計13名の選手編成です。成年男子のダブルや成年女子のクォドルプルなど入賞に期待したいと思います。

次にバレーボール競技です。成年男子と少年女子の2種別の出場で、監督2名、選手24名、計26名の選手編成です。成年男子の大分三好ヴァイセアドラー、少年女子の東九州龍谷高校ともに、上位入賞が期待される所です。

次に体操競技です。新体操の少年女子のみの出場です。監督1名、選手5名、計6名の選手編成です。入賞に届く演技を期待したいと思います。

次に、バスケットボール競技です。少年男子のみの出場で、監督1名、選手11名、計12名の選手編成です。粘り強い戦いに期待したいと思います。

次に、レスリング競技です。成年男子、女子、少年男子の3種別の出場で、監督2名、選手14名、計16名の選手編成です。昨年を上回る活躍を期待したいと思います。

次に、セーリング競技です。全種別の出場で、監督2名、選手14名、計16名の選手編成です。成年男子の470級、少年女子の420級の活躍を期待したいと思います。

次に、ウエイトリフティング競技です。成年男子、少年男子の2種別の出場で、監督1名、選手7名、計8名の選手編成です。成年・少年の総合力で昨年以上の競技得点獲得を狙います。

次に、ハンドボール競技です。少年男子、少年女子の2種別の出場で、監督2名、選手24名、計26名の選手編成です。会期前開催競技ですので、チーム大分に勢いをつけるためにも、大活躍を期待したいと思います。

次に、自転車競技です。成年男子、女子、少年男子の3種別に、監督2名、選手11名、計13名の選手編成です。成年男子を中心に上位入賞が期待されています。

次に、ソフトテニス競技です。成年女子と少年女子の2種別の出場で、監督2名、選手10名、計12名の選手編成です。九州ブロック上位通過の成年女子の粘り強い戦いに期待したいと思います。

次に、卓球競技です。成年男子、少年男子、少年女子の3種別の出場で、監督3名、選手9名、計12名の選手編成です。少年男子の活躍に期待したいと思います。

次に、軟式野球競技です。成年男子1種別に監督兼選手1名、選手15名の計16名の選手編成です。ブロック大会での延長14回サヨナラ勝ちしたような粘り強い戦いを期待したいと思います。

次に、相撲競技です。成年男子と少年男子の2種別に、監督2名、選手8名、計10名の選手編成です。決勝トーナメントを目指して粘り強い戦いを期待したいと思います。

次に、馬術競技です。成年女子、少年の2種別の出場で、監督1名、ホースマネージャー兼選手1名、選手1名の計3名の選手編成です。人馬一体となった競技に期待したいと思います。

次にフェンシング競技です。成年男子、少年男子、少年女子の3種別の出場で、監督2名、監督兼選手1名、選手8名の計11名の選手編成です。昨年に続きチーム大分の得点源として活躍を期待したいと思います。

次に、柔道競技です。全種別の出場で、監督3名、選手15名の計18名の選手編成です。久しぶりの全種別出場です。活躍を期待したいと思います。

次に、ソフトボール競技です。成年女子のみの出場で、監督1名、選手13名の計14名の選手編成です。日本文理大学の単独チームです。上位入賞を期待したいと思います。

次に、バドミントン競技です。成年男子のみの出場で、監督1名、選手3名の計4名の選手編成です。粘り強い戦いに期待したいと思います。

次に、弓道競技です。成年男子、成年女子、少年女子の3種別の出場で、監督1名、選手9名の計10名の選手編成です。昨年の成年男子の大活躍に続き、今年も活躍を期待したいと思います。

次に、ライフル射撃競技です。全種別に、監督1名、選手11名、計12名の選手編成です。チーム大分の得点源として大活躍を期待したいと思います。

次に、剣道競技です。成年男子のみの出場で、監督兼選手1名、選手4名、計5名の選手編成です。次鋒には世界選手権に出場する竹下選手がいます。活躍を期待したいと思います。

次に、山岳競技です。成年男子、成年女子の2種別の出場で、監督2名、選手4名の計6名の選手編成です。成年男子は和歌山国体で優勝したメンバーで臨みます。活躍を期待したいと思います。

次に、カヌー競技です。成年男子、少年男子、少年女子の3種別の出場で、監督2名、選手13名の計15名の選手編成です。戦力が充実してきました。高得点を期待したいと思います。

次に、アーチェリー競技です。成年女子、少年男子、少年女子の3種別の出場で、監督2名、選手9名の計11名の選手編成です。成年女子の活躍を期待したいと思います。

次に、空手道競技です。全種別に、監督1名、選手8名、計9名の選手編成です。成年男女の形に期待がかかります。

次に、クレール射撃競技です。監督兼選手1名、選手5名、計6名の選手編成です。力を発揮できれば十分入賞の可能性はあります。活躍を期待したいと思います。

次に、なぎなた競技です。成年女子、少年女子の2種別に、監督1名、選手6名、計7名の選手編成です。少年女子はインターハイ団体2位に入賞するなどチーム力は確実に向上しています。活躍を期待したいと思います。

次に、ボウリング競技です。成年男子、少年男子の2種別の出場で、監督2名、選手6名の計8名の選手編成です。チーム力を発揮しての活躍に期待したいと思います。

続いて、ゴルフ競技です。成年男子、少年女子の2種別の出場で、監督1名、選手6名の計7名の選手編成です。力をつけてきていますので活躍を期待したいと思います。

最後に、トライアスロン競技です。成年男子、成年女子の2種別に監督2名、選手4名の計6名の選手編成です。中央競技団体の指定強化選手が出場します。活躍を期待したいと思います。

以上、大変長くなりましたが、第73回国民体育大会大分県代表団につきまして説明させていただきました。御審議の程、よろしくお願いいたします。

《質疑応答なし。全会一致で承認された》

5 その他

- (1) 公益財団法人大分県体育協会の名称変更について
- (2) 大分県の運動部活動の在り方に関する方針について

【(1) 公益財団法人大分県体育協会の名称変更について】

それでは、大分県体育協会の名称変更について説明いたします。

41ページをお開きください。「日本体育協会」は本年4月1日より、「日本スポーツ協会」と名称を変更しました。また、6月の第196回通常国会において、スポーツ基本法並びに国民の祝日に関する法律が改正され、「体育の日」を東京オリンピック・パラリンピックが開催される2020年から「スポーツの日」に、「国民体育大会」を佐賀県で開催される2023年から「国民スポーツ大会」に変更することが可決されました。スポーツは、競技として行うものだけではなく、健康維持のための運動、古来、人々に親しまれてきた伝統的なスポーツ、さらには、新たなルールやスタイルで行うニュースポーツなども含め、体育や身体的活動の概念を包摂しているものと捉え、広義のスポーツという言葉が用いられています。このような状況を踏まえ、本会では、6月に加盟団体に対し名称変更に関する調査を行ったところです。

41ページ一番上をご覧ください。こちらが調査結果をまとめたものでございます。65加盟団体のうち、変更した方がよいは51団体、変更しない方がよいは5団体、その他は9団体でございました。割合で見ますと、変更した方がよいが78.5%、変更しない方がよいは7.7%、その他は13.8%で、変更したほうがよいとその他を合わせますと92.3パーセントとなっております。

43ページを御覧ください。今後の方向性についてでございます。事務局といたしましては、今回の調査により、全体の8割の団体から変更した方がよいとの回答をいただきましたので、名称を変更する方向で進んでいきたいと考えております。スケジュールとしましては、平成31年度第1回の理事会、定時評議員会で提案し、承認をいただければ変更手続きを行い、平成32年度4月1日、オリンピック・パラリンピックがおこなわれます2020年から名称を変更したいと考えております。なお、今回の調査で変更しない方がよいと回答した団体もありましたので、今後、名称変更を理解をしていただけるよう、関係団体に働きかけてまいりたいと考えております。

説明については、以上でございます。

《質疑応答》

(工藤議長)

名称変更をしている都道府県はどのような名称なのか

(佐保事務局長)

各県スポーツ協会となっております。

(今富理事)

中津市体育協会は、来年4月に名称変更を考えております。県は平成32年変更の方向性ですが、先行して名称

変更してもよろしいでしょうか。

(佐保事務局長)

県が名称変更してから名称変更しなくてはいけないということはないので、先行してもかまいません。

【(2) 大分県の運動部活動の在り方に関する方針について】

それでは、(2) 大分県の運動部活動の在り方に関する方針について説明いたします。

レジュメの44ページをお開きください。この古事は本年8月に県教委育委員会が大分県の運動部活動の在り方に関する方針を策定したことから、本会から各競技団体への周知するためのものであります。別添えて大分県の運動部活動に在り方に関する方針及び概要等をお配りしております。その概要に公益財団法人大分県体育協会、郡市体育協会、競技団体、総合型スポーツクラブやスポーツ少年団に関することが一部ございますので、本日説明させていただきたいと思っております。その説明につきましては、県体育保健課の加藤寛章体育・スポーツ振興監にお願いをしたいと思います。よろしく申し上げます。

(加藤体育・スポーツ振興監)

体育保健課の加藤といいます。私のほうから説明をさせていただきます。今年の3月に国が運動部活動の在り方に関する総合的なガイドラインを策定いたしました。策定の背景には、活動の過熱化による生徒のスポーツ障害の多発、また、公務員の働き方改革の問題など、昨今の運動部活動のさまざまな課題がございます。国が示したガイドラインの冒頭部分には、運動部活動は学校教育活動の一環として行われ、わが国のスポーツ振興を大きく支えてきたこと、また、生徒の多様な学びの場として教育的意義が大きいこと、一方で、教育に関わる課題が複雑化、多様化して学校だけでは解決できない課題が増えており、とりわけ少子化が進展する中、運動部活動においては従前と同じ運営体制では維持が難しくなっている状況から運動部活動を持続可能なものにするため、生徒のニーズに応じた運動・スポーツを行えるよう抜本的な改革に取り組む必要があるというように国が示すガイドラインでは記載されています。それを受けまして、大分県として今回の方針に至っているところであります。

資料A4一枚に概要と書かれているものをご覧ください。その資料に沿って説明をさせていただきます。

まず、趣旨でございますが、本県の方針の策定は、国のガイドラインに則り、中学校、高等学校の運動部を対象として本県の実状が生徒の発達段階を踏まえ、生徒にとって望ましいスポーツ環境を構築するという観点に立ち、運動部活動が多様な形で最適に実施されるように目指すことが趣旨でございます。

次に構成ですが、そこに書かれています、「1. 適切な運営のために体制整備」から「5. 学校単位で参加する大会等に見直し」までの5つの項目で構成されています。尚、この構成におきましては国のガイドラインと同様の構成にしております。

「1. 適切な運営のために体制整備」では、学校の設置者や校長、部顧問に対しまして、それぞれの立場で方針や活動計画等を策定すること、また、研修の実施、常務改善の実施について記載をしております。

「2. 合理的で効率的・効果的な活動の推進のための取り組み」では、校長や顧問が生徒の健康管理、熱中症を含む事故防止、体罰、ハラスメントの根絶を徹底すること、生徒の多様なニーズや実態に応じた指導や科学的トレーニングの積極的な導入などを記載しています。

裏面をご覧ください。「3. 適切な休養日の設定」です。国が示すガイドラインでは、中学校を主な対象として、高等学校は原則適応という表現をしておりますが、本県の方針では、休養日と活動時間の基準を中学校と高等学校を区別して行いました。中学校は週当たり2日以上、休養日を設ける。平日1日以上、週末1日以上。活動時間は長くても平日2時間程度、週末3時間程度とし、できるだけ短時間で合理的かつ効率的・効果的な活動

を行うとしています。高等学校では、原則週当たり2日以上、休養日を設けるとし1日は週休とすることが望ましい。活動時間は原則、平日は3時間程度、週末は4時間程度とし、できるだけ短時間で合理的かつ効率的・効果的な活動を行う。高等学校は学校の実態や特色、及び競技種目の特性、大会、シーズン等を考慮し、各学校において弾力的に休養日や活動時間を設定することができる。ただし、その場合にあっても週に1日及び月に1日以上休養日を完全休養日とするとしています。共通基準といたしまして、長期休業中は上記の基準に加え、連続した休養日やある程度長期の休養期間を設定すること。休養日として設定した日に大会参加等で活動した場合は、休養日を他の日に振替、休養日を確保する。大会参加等で、基準とする活動時間を上回った場合は、休養日を増やすなど、週や月単位で他の日の活動時間において調節するなどし、生徒にとって過重な負担とならないように配慮するとしております。この基準とする活動時間とは、国のガイドラインにおいて、週当たりの活動時間は16時間未満とすることが望ましいと示されております。このことは方針の中に記載されております。

「4. 生徒のニーズを踏まえたスポーツ環境の整備」では、合同部活動や総合型地域スポーツクラブを始めとした、地域のスポーツ団体との連携の在り方を記載しております。

「5. 学校単位で参加する大会等に見直し」では、主催者が大会の在り方について見直しの検討を行うことや校長が参加する大会を精査することを記載しております。

続きまして、本会大分県体育協会に関する部分について、説明をさせていただきます。冊子の8ページをお開きください。この部分につきましては、先ほど説明いたしました「4. 生徒のニーズを踏まえたスポーツ環境の整備」の地域との連携について示しております。カタカナで示しておりますウをご覧ください。公益財団法人大分県体育協会、郡市体育協会、競技団体及びその他のスポーツ団体は、総合型地域スポーツクラブやスポーツ少年団等の生徒が所属する地域のスポーツ少年団に関する事業等について、県教育委員会または学校の設置者等と連携し、学校と地域が協働・融合した形での運動部活動の整備・充実を推進するとございます。これは例えば、専門的な指導ができる人材が不足している学校の部活動に対して、部活動指導員、もしくは外部指導者として総合型地域スポーツクラブが指導者を派遣したり、また、生徒が総合型地域スポーツクラブに所属して専門的な指導を受けるなどして推進をしていただきたいと思いますとしております。

続いて9ページをご覧ください。「5. 学校単位で参加する大会等に見直し」でございます。ここでは、本会加盟団体でございます中体連、高体連、高野連に対して生徒のスポーツ障害・外傷予防の観点から、大会の規模や日程等の在り方に関する見直しの検討や生徒や部顧問の過度な負担とならないよう大会の統廃合を主催者に要請すること、校長が参加大会の精査を行うことが示されております。この文中に大分県体育協会という固有名称は記載されておられませんけれども、本会加盟団体においても年間さまざまな大会が開催されていることからこの部分におきましてのご理解、ご協力をお願いしたいというものであります。

以上、簡単ではありますがご説明とさせていただきます。

《質疑応答なし》

6 閉会のことば

伊藤総務部長が閉会のことばを述べた。

平成30年8月31日

副会長 工藤 利明

副会長 麻生 益直

監事 鍵矢 栄典

監事 工藤 哲郎

監事 矢部 正秋